

## ソーシャルネットワーク理論に基づく非感染疾患（NCD）の 予防戦略の実証的検証（継続2年目）

The Spread of Non-Communicable Diseases in a Large Social Network

佐藤 真治 (SATO Shinji)

### 研究課題の要旨

【背景】 Non-Communicable Diseases（NCD：癌、糖尿病、心血管系疾患などの非感染疾患）は社会的なつながりを通じて、人から人へ伝わる可能性があることが指摘されている。

【目的】 情報科学、社会学、医学など学際的な進歩が著しいソーシャルネットワーク理論（ネットワーク分析、クラスター化、イノベーション等）を取り入れ、地域において身体活動量を高め、NCDを抑制するためには、「どのような人のつながりが望ましいのか?」、「どのように人のつながりを操作すればよいのか?」を地域介入研究によって明らかにする。

### 研究の進行状況

本年度は、本研究課題の介入1年目までの成果をまとめて、論文にし、健康支援学会誌に投稿した（表題：身体活動増進に向けた地域介入がソーシャルキャピタルに及ぼす影響の地域差、in press）。

論文の要旨は以下の通り、兵庫県豊岡市内の山間集落である K 地区および住宅地である N 地区の住民を対象とし、1年間、身体活動増進に向けた地域介入をおこなった。具体的には、筋力トレーニングを主とした運動教室の定期開催や歩数計の無料配布、ウォーキングイベント開催、市報や自治体案内を通じた広報の強化などであった。以上の介入の前に、両地区において、成人男女を対象に各世帯に2枚ずつアンケート調査票を配布し、回答が得られた全員に対し1年後の調査を実施した。主な調査項目はソーシャルキャピタル値、身体活動量、人のつながり、性、年齢、持ち家の有無、居住年数などであった。介入前後ともに質問紙が回収された199名（K地区：44名、参加率52%；N地区：155名、参加率8.5%）を解析の対象とした。K地区はN地区と比べて、持ち家率が高く（K：100%、N：88%、 $p=0.015$ ）、20年以上居住している人の割合が高かった（K：93%、N：76%、 $p=0.017$ ）。地区×時間の2要因分散分析の結果、身体活動量は、交互作用を認めなかったが時間の主効果が有意であった（K：3.2→3.5ポイント、N：3.6→3.8ポイント）。ソーシャルキャピタル値は、地区と時間の交互作用を認め（ $p=0.015$ ）、K地区では変化を認めなかったが（ $p=0.118$ ）、N地区では有意に低下した（ $p=0.017$ ）。

現在、介入3年目の最終アンケートの集計結果をデータ解析中。

以上